

2016 年の回顧と 2017 年の展望

西 羽 晃

昨年は満 80 歳を迎えたが、多事多難で多忙な日々が続いた。そして老いの身をしみじみと感じさせられた。

1 昨年に桑名市長は諸戸徳成邸を取得すると言明しておきながら、昨年は反対に取得しないと発表したことは、最もショックであった。諸戸徳成邸の今後の明るい展望を考えて、その中で私の活躍する場があるとうを夢みたが、すっかり気落ちしてしまった。しかし数度の草刈り、毎月 1 回は大小のイベントを開催し、春と秋の特別公開は予想外の参観者が来訪された。とくに秋には 1800 人と空前の人たちが来られた。しかし貴重な本物の歴史遺産を桑名市は保存しようとする努力のかけらも見せず、むざむざと捨て去りそうである。



諸戸徳成邸のサクラ 16.03.27

二つ目の失望は桑名市の歴史意識に対する認識不足である。それは『くわな史跡めぐり』の発行である。桑名市文化課が編集したのであるが、間違いだらけで、啞然とさせられた。公的機関の発行にしては余りにもお粗末すぎる。桑名市の大恥をさらけ出すことになった。私が提供した意見を『朝日新聞』が取り上げてくれて、それがWEB版にも掲載され、当日のヤフーの検索でトップ・ニュースになった。CBCテレビでも取り上げてくれた。私以外の方々からも指摘があり、おかしい点は200点を越すであろう。正誤表では無理で、全面的な改訂版の発行が望まれる。



間違いだらけの『くわな史跡めぐり』

個人的なことでは秋に富山・高岡への旅行である。万葉集の朗唱会に参加するのが大きな目的であったが、路面電車を味わうこと、北前船の名残りの港町を訪ねることも楽しんで、久しぶりにゆったりとした旅であった。しかし、北陸新幹線が開通したため、従来の北陸本線の一部はJRから離れたので非常に不便であり、不利益（ジパングが使えない）であった。



高岡市内を走る路面電車 万葉線

西羽家先祖の記録を京都で見つけて、コピーを撮ってきた。私の曾祖父が息子（すなわち私の祖父）のことを書いている。時間がなくて、まだ解明していない。祖父に彼岸で再会するまでに解明しておきたいと思っている。また終活（終末活動）も始めて仏壇を買い替えたが、まだ本格的に取り組めない。

2017年には更に身の整理を行うつもりである。NPO法人みえきた市民活動センターの退会、NPO法人東海道宿駅会議理事の退任、NPO法人フレンド・アジア・ロード副理事長の辞任、公益財団法人くわしん福祉文化協力基金評議員の辞任、桑高同窓会会長の辞任などを考えている。

これだけ辞めても、やりたいことは山積している。公民館での郷土歴史講座、古文書の勉強会、桑名歴史事典の作成、桑名関係新聞記事目録の作成、桑名日記の索引の作成など。ただ何事にも思考力も動作も鈍くなってきて、時間がかかるのである。1億総活躍には反するけれど、焦らず、ゆっくり歩みたい。そして只々健康でありたい。